



よりよい世界のために

福井市足羽中学校 3年 奥村 颯太

僕は一昨年の夏、山口県で行なわれたボーイスカウトの第16回日本ジャンボリーに参加しました。この大会には日本全国はもちろん、世界52の国と地域から同年代の少年たちが参加していました。その時の出会いや思ったこと、感じたことを話します。

僕はその大会中に、アメリカの人とキャッチボールをしたり、インドの人とトランプをしたり、モルディブの踊りを教わったり、その他たくさんの国の人とバッジを交換したりしました。出身国どころか名前すらもわからない外国の友達と一緒に汗を流すこともありました。宗教、文化、科学、自然など多くのプログラムもとても勉強になるものばかりでしたが、それらのプログラムより、他の県の人、他の国の人との出会いのほうが心に残っています。その体験を通して僕は大きく二つの事を感じました。

一つ目は、自分の国の良いところも悪いところも知った上で仲良くなろうとすべきだということです。僕はそのとき、戦争のときのことや領土のことで問題となっている中国や韓国の人とも出会いました。その時思ったのは、皆普通に良い人だということです。僕たちは大抵、あまりよく知らない人や国のことでも、その人や国の悪いところは知っています。良いところは仲良くなったり、深く知ろうとしないとわからないものだと思います。少なくとも僕が出会った人達は、ニュースで耳にする外国人とは違いました。だから僕は良い点も悪い点も理解して、それらを伝え合わなければいけないなと思いました。

二つ目は言葉の大切さです。大会を通して、日本人以外は英語を普通に話せるということを実感しました。自分の国の良いところを知っていても、それを伝えられなければ意味がありません。僕はそのとき、相手の言っていることがわからなかったり、自分の言いたいことを伝えられないことが多々ありました。当時から英語には自信があったけど、まだまだだということを痛感しました。自分の周りにも、英語が苦手な人がたくさんいます。いろいろな国の人と仲良くなって、より良い世界にしていくには英語が大切だということを伝えていきたいです。

今の世界には、日本人は嫌いだと思っている人が、アジアを中心にいると思います。その人たちと仲良くなって、よりよい世界を築くには、世界を知る前に正しい日本のことを知って、それを伝えるために英語などの外国語を学ぶことが大切だと思います。